

平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ホッコクアカエビ

学名 *Pandalus eous*

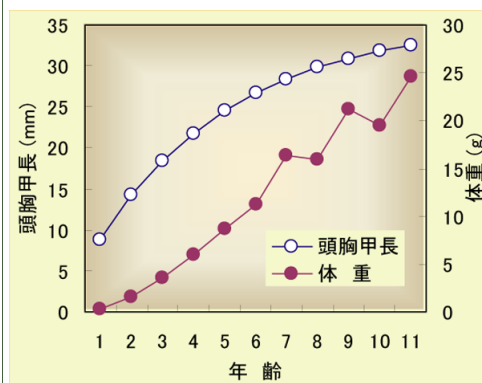
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 11年
成熟開始年齢: 雄性先熟の雌雄同体で、雌としての成熟は6歳
産卵期・産卵場: 2～4月で隔年産卵、成長に伴い400～600mの深みへ移動した後、性転換と交尾・産卵を行う、産卵を終えた抱卵個体は次第に浅い方へ移動し、主に水深200～300mで幼生の孵出を行う
索餌期・索餌場: 主分布域と同海域
食性: 微小な甲殻類、貝類、多毛類およびデトリタス等
捕食者: マダラ、スケトウダラ等の底魚類

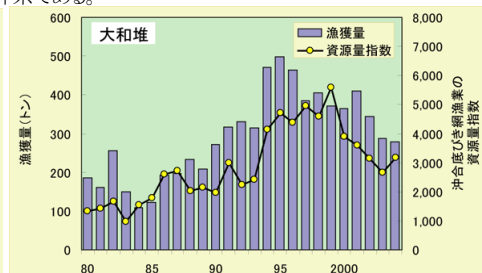
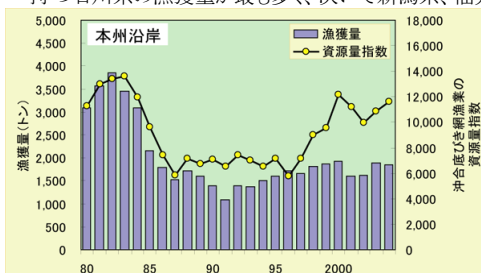


漁業の特徴

鳥取県～北海道沿岸の水深200～950mの深海底に生息し、分布の中心は200～550mにある。沖合底びき網、小型底びき網、かご網によって漁獲される。

漁獲の動向

漁獲量は1982年の4,118トンピークに減少傾向にあったが、1995年以降は2,000～2,200トン台で推移し、2004年も約2,000トンでほぼ横ばいで推移している。漁場の中心は水深500mで、特に能登～若狭湾を中心とする日本海中部海域と、隠岐堆、新隠岐堆を含む山陰沖及び大和堆が主要な漁場となっている。県別では、沿岸に主要な漁場を持つ石川県の漁獲量が最も多く、次いで新潟県、福井県である。

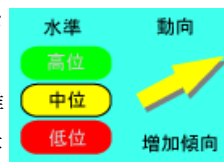


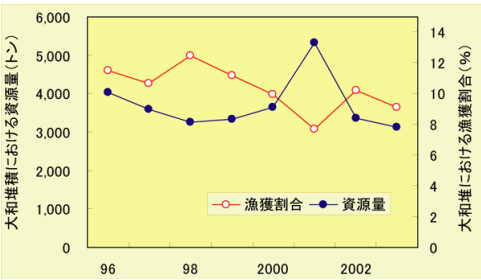
資源評価法

漁獲の50～60%を占める沖合底びき網漁業の漁獲成績報告書による海区别的資源量指数と漁獲量の推移及び、漁獲の多い石川県と新潟県の小型底びき網漁業における主漁場でのCPUEの経年変化基礎とした。また、能登半島以西の本州沿岸については、調査船による採集結果から資源量を試算し、その動向を調べた。

資源状態

有効漁獲努力量が減少傾向にあるなか、近年の漁獲量は過去最低だった1991年よりかなり回復した値で1994年以降は横ばいに推移している。加えて、1990年以降の沖合底びき網の資源量指数は増加傾向にあり、石川県と新潟県の小型底びき網漁業のCPUEも2002～2004年に増加傾向が認められる。また、調査船による調査結果から推定される2005年の能登半島以西における本州沿岸の資源量は、前年と同程度に維持されていた。大和堆での資源量調査は2004年は実施していないものの、努力量が減少していることから、こちらも資源の状態は良好に維持されていると判断される。これらのことから、本種資源は全体としてゆるやかな増加傾向にあると判断される。





管理方策

1996年以降の沖合底びき網漁業による本州沿岸の資源量指数及び、近年の小型底びき網漁業のCPUEは増加傾向にあり、資源動向は増加傾向にあると判断される。しかし分布の中心が西から北へ移動している状況と資源が最も良かった時期の水準までは戻っていない現状を踏まえ、資源水準を高位に戻すことを管理目標とした。過去5年間の平均漁獲量および安全率0.8を考慮してABCを算定した。

	2006年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	2,100トン	Cave5-yr	-	-
ABCTarget	1,700トン	0.8Cave5-yr	-	-

資源評価のまとめ

- 主要な漁場である本州沿岸において、資源量指数やCPUEが増加しており、資源状態は中位水準、動向は増加傾向にある
- 能登半島以西における本州沿岸の資源量推定結果は横ばい傾向で、資源の状態は良好といえる
- 資源の分布の中心が日本海の北に移動しつつある

管理方策のまとめ

- 管理目標は、現在の漁獲水準を維持し、資源水準を高位に戻すこと

資源評価は毎年更新されます。